

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

科目	探究生物	単位数	2	週時間数	4	年次・コース・組	3年探究理系
使用教科書 副教材等	自主教材 スクエア最新図説生物(第一学習社)						

① 学習の到達目標

既習の各分野に関して、さらに発展的な内容を多く取り扱うことにより、それぞれの分野のつながりや構成を理解するとともに、科学的に考察する力を養い、それらを積極的に応用し探究していく態度を育てる。

② 評価の観点、方法

原則として、定期テスト80点、平常点20点 の100点法で評価する。
定期テストにおいては授業の学習内容の理解度を主に評価する。
定期試験前の課題などの提出では、おもに関心・意欲、判断力、表現力を評価する。
出席状況、授業への取り組み等により、関心・意欲・態度、また思考力・判断力も評価する。

基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)
グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)
基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)

③ 担当者から

1年次の「生物基礎」、2年次・3年次前期の「生物」を履修したことを前提として学習する。
主に「生物」の内容をより深める学習を行う。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

月	単元名	教科書項目等	・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点	授業時数
4				前期中間Ⅰまで
				予定 0
5				実施 0
				前期中間Ⅱまで
6				予定 0
				実施 0
7・8				前期期末まで
9				予定 0
				実施 0
10		「生命現象と物質」	・細胞と分子 ・代謝 細胞小器官や生体膜のはたらきについてさらに詳しく学習する。また、タンパク質を分子レベルでとらえ、生命現象との関わりについて細かく学習する。 さまざまな化学反応を分子の動きで理解し、代謝反応全体を関連させて理解させる。 ・遺伝情報の発現 化学的な内容を中心に遺伝子のはたらきをとらえ、現在の技術における課題について考えさせる。	後期中間まで
		「生殖と発生」	・有性生殖 ・動物・植物の発生 基本内容に触れながら、細胞分化や形態形成の内容を詳しく取り扱う。	予定 24 24
11				実施 0
12		「生物の環境応答」 「生態と環境」 「生物の進化と系統」	・動物の反応と行動 ・植物の環境応答 一連の反応を総合的にとらえられるよう学習する。 ・個体群と生物群集 ・生態系 生態系という大きな括りの中で、生物群集の成り立ちと共存のしくみや物質の循環についてさらに理解を深める。 基本事項を再度確認し、全体的な流れを追って進化を総合的に学習する。	年度末
1				予定 20 44
				実施 0
2・3				